

高校3年生がエッセイライティングを できるようになるまで

萩原 一郎

1. はじめに

「ライティング」（現行学習指導要領下の「英語表現」に相当）の授業というと、依然として文法事項の説明と練習問題や和文英訳の答え合わせなどが主流を占めるようである。新たに1年生から担任をもつことになり、3年間の最終段階では自分の意見を述べる数個のパラグラフを書けるようになってほしいという考えでシラバスを構想した。

使用教科書は *Cosmos English Writing*（三友社出版）。自己表現、パラグラフ・ライティングに力を入れている教科書で、各課に“Self Expression”のコーナーがある。この教科書を使うことで、必然的にすべての教科担当者が生徒に英語のパラグラフを書く指導を2年生から取り入れることになった。

この実践を行ったのは中堅校のK高校であり、当時のカリキュラムでは、「ライティング」は2年間分割（2年次2単位、3年次1単位）で合計3単位であるが、2年次には1年次からの継続指導で文法の準教科書の残りをやらなくてはいけないので、ライティングの教科書に入ったのが10月末。しかも、3年次は週1回しか授業がないという授業時数の上では相当に限定された中での授業である。2年次の約25時間、3年次の約20時間という授業数で、「数個のパラグラフを全員が書ける」ようになるという壮大な目標に向かっての指導がはじまった。まずは2年間にわたるシラバスを作成した。

2. 英語ライティング年間指導計画

●2年次（週2時間）

【1学期～2学期半ば】

- 関係詞と仮定法を使った英文づくりの課題（英文1文＋日本語の補足）
- 定期試験で「1文自己表現」の問題を出題

【2学期後半】（約10時間）

教科書の進度	パラグラフを書くためにやったこと、課題の内容
Warming-up	和文英訳の練習、前置詞、和英辞典の使い方 パラグラフの書き方の注意 （箇条書きにしない、indentのルールなど）

教科書の進度	パラグラフを書くためにやったこと、課題の内容
Lesson 1, 2	課題① 身近なものについて 1 paragraph を書く My Treasure で自分の大切にしているものを書く

《2学期期末テスト》(自由英作文のテーマ、タイトル)

1. My Family (私の家族)
2. My Typical Day (私の典型的な一日の過ごし方)

【3学期】(約15時間)

Lesson 3, 4, 5, 6	課題② 身近なものについて 1 paragraph を書く My Sweet Memory, My Name, My Pet ★「接続詞」を使うことを目標とした。一文あたりの平均語数を出すことも求めた
-------------------	--

《3学期期末テスト》

1. My Happiest Memory (私のいちばん楽しい思い出)
2. The Place I Want to Visit (私が行きたい場所)
3. My Club (私のクラブ)
4. What I Want to Be in the Future (私が将来なりたいもの)

●3年次 (週1時間)

【1学期】(3～4時間+6時間)

Writing skills 1 Lesson 7, 8	パラグラフの構成 topic sentence と supporting details 課題③ 説明文の 1 paragraph を書く A or B の2者択一のパラグラフ
Lesson 8, 9	冠詞の使い方 課題④ 説明文のパラグラフを書く A or B の2者択一のパラグラフの編集作業 ★「対比を表す語句」を使う

《1学期中間テスト》

1. City Life vs. Country Life (都会の生活か田舎の生活か)
2. The Place I Want to Visit (私が行きたい場所)
3. My Treasure (私の宝物)
★それぞれ2つの理由とくわしい「裏付け」を書く

《1学期期末テスト》

1. My Teacher (先生紹介)
2. () Has Changed Me (私を変えたもの)
3. The Song I Like Best (私がいちばん好きな歌)

【2学期】(5時間+5時間)

Writing skills 3 Lesson 10, 11	パラグラフの発展 (意見の書き方) 「自分の意見を書くためのワークシート」(1)
Lesson 12, 13	「自分の意見を書くためのワークシート」(2)(3) 課題⑤ 自分の意見を述べる 3 paragraphs 以上を書く <ul style="list-style-type: none"> ・ Cellular Phones (Are / Are Not) Necessary to High School Students. ・ Going on School Trips (Is / Is Not) a Necessary Part of High School Life. ・ 自由テーマ ★予想される反論に対して再反論を加える

《2学期中間テスト》

1. My Most Unforgettable Person (私の忘れられない人)
2. My Favorite Animal (私の好きな動物)
3. The Movie I Like Best (私がいちばん好きな映画)

《2学期期末テスト》

1. Cellular Phones (Are / Are Not) Necessary to High School Students.
2. Going on School Trips (Is / Is Not) a Necessary Part of High School Life.
3. 自由テーマ ★あえて課題⑤と同じものにした

【3学期】(2時間)

Lesson 15	
-----------	--

《3学期期末テスト》

1. Some people think that watching too much television is not good for high school students. Do you agree with this idea or not? Give as many reasons as you can for your opinion.
2. Some people think that families should spend more time together than they do. Do you agree with this idea or not? Give as many reasons as you can for your opinion.

3. Some people think that Japanese children should start studying English while they are in elementary school. Do you agree with this idea or not? Give as many reasons as you can for your opinion. ★ 2学期の内容をもとにした応用問題

3. ステップ1—1文単位での英文づくり

上で述べたように、十分な授業時間がとれないことは最初から分かっていたので、2年次の1学期から学習した文法事項を使って、1文単位で自分のことを表現したり、英文を作らせることを心がけてきた。一つは課題で、関係詞と仮定法を使った英文作り、もう一つは定期テストで「1文自己表現」の問題を毎回出題したことである。英文作りの課題はできるだけ多くの作品をプリントに載せクラスで読み合い、試験問題ではつづり字の間違ひは減点されないこと、内容がよかったり、工夫が見られるものは加点されることがあることを明示した。

《課題の実例》

【関係詞を学習したあとで】

1. I will never forget the day when

「....した日のことは決して忘れない」と、自分にとって忘れられない日のことを書いてみます。嬉しかったこと、悲しかったことなど思い出に残る日のことを何でもどうぞ。whenのあとには、“主語＋述語動詞”の形がつづきます。英文のあとに、日本語でコメントをつけて下さい。

3. I want to be a person who The man (woman) I respect (like) is....

「私は....な人になりたい。私が好きな人は(尊敬する人は)....」と英文をつづけ、その理由をくわしく書きましょう。こちらはすべて英語です。(2.は省略)

ここで注目していただきたいのは、1文ではメッセージが伝わりにくいので、日本語で補足をさせていること、3.では与えられた2文に理由を添えれば、少なくとも3文になること、何かを述べたら理由を添えるという英語の論理に則った英文を自然に書けるようにしたことである。

いくつか実際の生徒作品を見てみたい。スペースの関係で「関係詞」のほんの一部のみを掲載する。(以下、生徒作品は基本的なスペリングミスを除いて原文のまま)

1. I will never forget the day when....

I will never forget the day when I stood on the stage.

舞台に立つまでの練習状況は最悪。でも本番は大成功。うれしくて、うれしくて涙を流したことを思い出します。

3. I want to be a person who The man (woman) I respect (like) is....

I want to be a person who is loved by a lot of people. The woman I respect is my mother. She works at the cafeteria of ○○ High School. She always says the work is hard, but it is fun to talk with the students. Maybe she is an idol of the cafeteria, I think. Some of my friends say that my mother is always vigorous and cheerful. But I want her to be moderate. Though I think she is a nice mother!

《定期テストの問題より》

【2学期中間テスト】

1. Nothing is to me. という形で「自分にとっては～ほど大切なものはない」という自分にとって一番大切なものを表す英文。
2. If I had a million yen, _____, ではじめて。
3. If _____, I' d feel very sad. の下線部をおぎなう。
4. I wish I _____, の下線部をおぎなう。

4. ステップ2—自分のことに関するパラグラフを書いてみる

2学期中間テスト後から、いよいよライティングの教科書(*New Cosmos Writing*)に入った。Part 1 の Warming-up で主に日本語との対比に焦点をあてた和文英訳などの練習をしたあと、Part 2 にはいる。教科書を使った授業では、モデルパラグラフの解説(重要語句ばかりでなく、パラグラフの構成などへも言及)のあと、音読、そして Read and Look Up などの手法を用いてパラグラフの暗唱練習。その後、その課の文法事項について、できるだけ英文法準教科書とはちがった英語を書くという視点からの自作プリント(英W 1～20)を使って、解説と演習を行った。そのあとで教科書の練習問題も一通りやるというのが基本的な流れである。

また、教科書以外に3年次には『英語構文ステップアップ77』(エスト出版)を全員に持たせて、毎回15前後の chapter を試験範囲に加えた。授業時間が週に1時間と少ないので、文法の復習と英語を書くときに使える構文を自学自習で身につけてもらうことを狙いとしたものである。

(1) 課題をどのように提示したか

それと並行して、パラグラフを書くための課題を適宜提示していった。第1回目の課題は教科書2課と同じタイトルの“My Treasure”。本格的なパラグラフを書くのが初めてなので、パラグラフの書き方について説明した。具体的には、パラグラフの書き出しは少し下げること(indent)、右端はできるだけそろえて、箇条書きにしないことなどである。

(2) 課題をどのように処理したか

出された課題は目を通し、最後に日本語でコメントを書くようにした。この種の課題では常に英語の添削が問題になるが、私の場合、基本的にはしないことにしている。するとしても誤りがある箇所は下線を引く程度である。このような処理の仕方をする理由はいく

つかあるが、最も大きなものは完全に添削しようとする、教師の負担があまりに大きく、パラグラフ・ライティングの指導が継続できなくなる可能性が高いためである。この年、私は3クラスの生徒を教えていたので、課題を提示すれば100程度の作品が提出されることになる。これを全部添削するというのが、どれだけ大変なことかは想像するに難くない。その代わりに、代表的な作品を載せ、生徒の誤りの中で特徴的なものを選んで直した「よくある誤り」のコーナーを設けたプリントを作り、授業の中で生徒と一緒に読み合うことを続けた。以下にプリントの実例をあげる。

My Treasure (私の大切なもの) 作品集

One of my greatest treasures is my hands. I have two hands. I can use my hands freely. I can have various things, feel the temperature and express my various feelings by hands. So my hands are important for me.

When I was a child, I liked to use my hands. It hasn't changed since I was a child. Above all, I like painting pictures, so my course is really one. I will go to art university and study design. There is a close relationship between hands and my course.

I have a dog. When I was eight years old, I got a dog that was left behind. My father didn't like dogs, because he had his hand bitten by a dog a long time ago. But he let me keep the dog. The dog is male.

When he was three years old, he was involved in a traffic accident, and he lost a leg. I cried a lot. But he could walk, and go up and down the stairs. I was very happy.

Six years have passed since then. He is healthy now. He is a member of my family. And he is my treasure.

【よくある誤り 10】

1. × I enjoyed very much. (enjoy は他動詞)
→ I enjoyed myself very much.
I had a very good time.
2. × When I looked it, (look は自動詞)
→ When I looked at it,
3. × But, I didn't like it. (but は接続詞) → But I didn't like it.
4. × I have to study homework. (「宿題をする」は do homework)
→ I have to do my homework.
5. × My like color is blue. (形容詞+名詞, 名詞+長い形容詞)
→ My favorite color is blue.
The color I like is blue.
6. × I like apple very much. (一般的なものを表す名詞は複数形)
→ I like apples very much.
7. × I become to go to school by bicycle. (become + 不定詞は ×)

- I began to go to school by bicycle.
8. × I have to finish it till next Friday. (「～まで」は till, 「～までに」は by)
→ I have to finish it by next Friday.
9. × We looked each other. (each other は副詞ではなく代名詞)
→ We looked at each other.
10. × The photos remember me my junior high school.
(remember は「思い出す」, remind は「思い出させる」)
→ The photos remind me of my junior high school.

2 回目の課題として、My Sweet Memory, My Name, My Pet のうち一つを選んで、パラグラフを書くことを求めた。その際、「接続詞」を使うことを目標として、短い英文の羅列にならないようにした。1 回目の課題において全クラスでそのような傾向が見られたためである。

さらに、定期テストでも 15 点～25 点程度の配点でパラグラフを書く、という設問を最後に設けた。試験では辞書が使えないので、基本的につづり字の誤りは減点しないこと、量を重視することなどを明示した。(定期テストでの出題例については 116 ページ参照)

5. ステップ 3—説明文のパラグラフを書く

この段階から本格的なパラグラフ・ライティングに入る。教科書 Part 3 を使ってパラグラフの構成 (topic sentence, supporting details など) について説明したあと、city life と country life それぞれについて利点をあげることを主要な目標としたワークシートを使って、授業で練習した。

課題では “A or B” の形式で自分でテーマを設定し、その理由を first, second, third などの link words を使っていくつか述べるという形式で書くように指示した。

さらに、初めての「編集作業」を取り入れ、課題につけられた教師のコメントや書き直しの視点、さらに文法の間違い (教師は誤りに下線を引く、余分な語に×をつけるなど基本的な指摘をしたのみ) の指摘をもとに生徒に同じテーマでもう一度書き直すということ求めた。また、2 つのものを対比するパラグラフになるので、but, however, on the other hand, unlike ... などの「対比を表す discourse markers」を例文付きで示し、その中からいくつか使ってみるように指示した。

以下に、ある生徒が「鉛筆かシャーペンか」というテーマで書いたパラグラフを最初のもものと「編集作業」を行ったものの 2 つをあげるので、どれだけ作品が変化したかを見ていただきたい。

[first draft]

Pencils or mechanical pencils

I like mechanical pencils better than pencils for two reasons. First, mechanical pencils is better than pencils environmentally, because pencils uses very large numbers of wood.

Second, mechanical pencils is convenient because mechanical pencils put in the core simply.

[教師のコメント]

よく工夫して書いています。それぞれの理由に十分な「裏づけ」をつけて詳しく書いて下さい。量は2倍にしましょう。

[second draft]

Pencils or mechanical pencils

I like mechanical pencils better than pencils for two reasons. First, mechanical pencils is better than pencils environmentally, because pencils consumes very large numbers of wood. We often hear mass communication it that destruction of forests advances rapidly these days. We should use mechanical pencils in order to save the forest and the human race.

Second, mechanical pencils are convenient to use. For example, if core of pencils run out in the examination, pencils cannot use because pencils take time to sharpen. On the other hand, mechanical pencils put in the core of mechanical pencils simply.

6. ステップ4—自分の意見を述べるパラグラフを書く

パラグラフ・ライティングの最終段階として、3パラグラフ以上からなる「自分の意見を述べるパラグラフ」を書くことを求めた。高校3年生といえども、かなり難しい課題なので、授業で「自分の意見を書くためのワークシート」を4種類使いながら少しずつ予備作業を行った。

まず、高校生にとって一番の関心事である「携帯電話」についての賛否両論が書かれた英語の文章を読み、使えそうな理由にマークするなどの作業を行った。ここでの目標は「テーマについて賛成意見、反対意見をできるだけあげてみる」ことである。

次の2枚のワークシートでは、修学旅行、リサイクルに関する文章を読んで、反論の仕方を学習した。

最後の1枚のワークシートではパラグラフを書く前に日本語での「資料収集」の大切さを説いた。携帯電話、修学旅行について、新聞記事や高校生用の雑誌などから資料を提示した。そして、以下のような課題を書くためのワークシートを配布した。

自分の意見を書く（課題）

- 以下の3つのテーマから選んで、3つ以上のパラグラフを書いて下さい。
 1. Cellular Phones (Are / Are Not) Necessary to High School Students.
 2. Going on School Trips (Is / Is Not) a Necessary Part of High School Life.
 3. 自由テーマ
- 「自分の意見を書くためのワークシート」(1)～(4)、補助資料をよく読み直してから書き始めること。

○今回の主眼は「反論に対して再反論を加えること」である。これが書き込まれていることが条件である。なお、「反論に対して再反論を加える」方法はワークシート（２）（３）で２種類示してあるが、どちらの方法をとってもよい。

ただし、ワークシート（２）の「修学旅行」の方法は自分の意見が少数意見だと思ふ場合、ワークシート（３）の「リサイクリング」は自分の意見が多数意見だと思ふ場合に向いているが、どちらを使ってもかまわない。

○「つなぎ言葉」（英W20）をできるだけたくさん使うように努力すること。

○【下書きのためのワークシート】に書くためのメモ（骨子）を記入することからはじめること。

「携帯電話」「修学旅行」それぞれについての生徒の作品例をあげる。

Cellular phones are not necessary to high school students

Today, many people have cellular phones. Of course, many high school students have, too. However, are cellular phones really necessities for them? I think “no necessities.” In this essay I would like to state my reasons.

First of all, cellular phones are worthless to human beings. We hardly notice it. For instance, cellular phones’ electromagnetic waves bring unexpected accidents by airplane. In addition, electromagnetic waves affect direct to human beings. Thus, cellular phones affect bad effect.

Secondly, cellular phones are not too convenient. Human beings degenerate by this. For example, cellular phones can connect in a moment. But before long it get vanish will power. Because before long we don’t make an effort.

Some people say that cellular phones are very good. Cellular phones may surely very good. Besides, to tell the truth, I have cellular phones too. However, before long we depend on cellular phones.

In conclusion, we don’t have to cellular phones. We should use effective when if we use it.

Going on school trips is a necessary part of high school life

It is very good that we are going on school trips in high school life.

First of all, we can have exchange to friends on school trips. However, all classmate can not have exchange. Ever good friends always go together, but new friends speak seldom together and not go together. For example, when make group, speak like that friends doesn’t be together. Though we can have exchange because we can be together till night.

Secondly, school trips becomes one of the pleasant memory in high school life. In high school life, we can be together until night only this time. Don’t enter club people will become the most pleasant memory.

Some people say that don’t need to go out with all classmate and grade everybody.

Obviously, we are high school student, such thing to do not sense. However, can make class's bond and classmate can unite. This is wonderful thing!

In conclusion, it is necessary that we go on school trips in high school life. By school trips, we can have exchange to friends and we can make pleasant memory in high school life. After all school trips regularly thing in high school life.

そして、最後の3学期の期末テストでは、全くの応用問題として生徒に事前にテーマを知らせずに、3つのテーマについて、賛成か反対かを示し、その理由を述べるという問題を出した(117ページ参照)。生徒がどのような英語を書いたか、いくつか示してみたい。

【英語の成績が上位の生徒】

I agree with this idea, because I have a experience when I was lonely.

Both my parents had a work. They were working very hard, usually Saturday and Sunday. When I was in elementary school, I wanted to go out with my family, because some friends of mine talked that they went out with their family. I envied my friends. Sometimes I said my parents "I want to go shopping!", "I want to do Disneyland!"..... But their answer was usually "Sorry, we are busy...." I always got angry and very sad. I think my sister and brother the same things. So when I went out with my family, I was very happy.

I have already grew up, now I don't want to go out with my family so much. But I think children, especially small children should spend many times with their family. A lot of times that there isn't their family make children lonely, I think. I know it is no good because I had experienced. If I have a family, I want spend with my family as many times as I can. So, I agree with this idea.

I don't agree with your idea because of two problems.

First of all, we, the Japanese people should more learn about our language. Little children including elementary school can more development in physical and mental. Of course, their ability of education is so. We think that Japanese is abused by Japanese. We should correct our language in earlier age.

Secondly, in elementary school, students cannot learn English in their ability. Today, they study 8 class in school. The more it is increase class, the more tire of student is increase. In effort, it will increase people who don't go to school. We should prevent student from don't going to school.

In our age, computer technology is developing and Internet is used by people over border. So we have to use English to communicate with foreign person. I can understand partly that Japanese student should start studying English while they are in elementary school in order to catch up with the global society. However, to use English, we can use Japanese correctly.

The education of language start there, I think. How about you?

【英語の成績が下位の生徒】

I don't agree this idea. Watching too much television is not good for high school student. What is bad?? I think because 2 reasons.

First, TV give me a lot of information, for example, music, fashion, movie, art etc. and news in the world. I can know in my house.

Second, I can watch TV 24 hours every day. If I am lonely, TV will make me feel better.

However, TV too full of information. One of these is not good for high school student.

I think TV program creators make better program. Many people can understand that.

I don't agree with that idea, because I think that we can communicate to international by television. 確かに it is not good to depend media, but we knew televisions is very useful.

Televisions are useful to know faraway. Televisions are easy to know now. But I think that we must not be danced by テレビの情報 .

7. おわりに

今回の実践は、かなり限られた授業数の中で、最終的に3パラグラフからなるエッセイを書けるようになるという目標で2年間にわたって行い、英文の正確さ（accuracy）には問題を残したものの、何とかその目標を達成することができた。しかも、この実践が私個人でなく学年の教科担当者の協力を得ながら、学年7クラスで行うことができたことが嬉しい。以下、2年間の取り組みを終えた生徒の声をいくつか紹介したい。

- 実際、社会にでて英文を書くとき、自分の力だけで文章を考えて、それから英文を書かなければならない。○○のような授業をやると、頭の中で日本語→英語と分離しなくても、自然にできるようになるから、○○のような授業の方が将来的に考えていいと思う。
- 英語で書くと、日本語で書けないような素直な気持ちが書けるということを知った。だから、こういうのを知っていたら、文章を書かないような授業は形だけの英語というような英語に触れていて中に入っていないような気がした。
- 友だちに聞くと、「ライティング」で文章を書く授業ではないところもあると聞いて、文章を書く授業があって、本当によかったと思う。その子たちは文章を書いたことがないと言っていた。書いてなかったら、私も今ごろは文章を書けなかったと思う。本当に授業でやってきてよかった。